

ひょうご子どもと家庭福祉財団

障害のある子 寄り添い50年

障害のある子どもと一緒に遊んだり、療育したり、相談に乗ったり。さまざまな支援を行っている民間団体「ひょうご子どもと家庭福祉財団」(神戸市中央区、片岡理事長)が18日、発足50周年を迎える。西宮市内の小さな一室を拠点にスタートした取り組みは半世紀を掛けて兵庫県内全域に広がり、現在は神戸市や三田市の計2カ所に療育ができる「子ども発達支援センター」を開く。多くの保護者や障害児に支持され、その歩みをこれからも続けていく。

(鈴木久仁子)

西宮から県内全域へ施設開設、自立支援にも力



①体を使った療育の一環「ジャンボマットの山登り」をする子どもたち=三田市井ノ草(ひょうご子どもと家庭福祉財団提供)
②財団の前身、心身障害児福祉ビュローの発足を伝える神戸新聞阪神版の紙面

20日、神戸で式典

同財団の前身「心身障害児福祉ビュロー」は1968年、ボランティア団体として活動を始めた。また、障害児への社会的理解も公的支援も乏しい中、神戸松蔭女子学院大、神戸大、関西学院大など神戸・阪神間の学生たちが、重度の心身

互いにふれ合うチャンスつくりをした。両者に大きな収穫だったと話す。発足後10年は毎年100人もの学生が関わり、卒業生は全国の行政や研究部門など多分野で活躍しているという。

78年に財団法人化。特別支援学校を卒業後、在宅が難しい障害者が暮らす施設も六甲市や玉塚市に開いた。近年は発達障害児の支援に力を入れ、聴覚言語療法や理学療法などの療育事業や相談業務も行う。気兼ねなくみんなで観劇したり、旅行に行ったりするプランも人気という。

「いつも相手の望んでいることを第一に考える姿勢」を大切にしてきたという片岡理事長。「これから社会に障害児を知る接点をまいていきたい」と力を込める。

20日14~16時、神戸市東灘区向洋町中2、神戸ベイ

シエラトン ホテル&タワ
ちにぜひ来てほしいと呼
びかける。ひょうご子ども
と家庭福祉財団078・
38820064